

現地レポート／ 高橋 真保子 (生命科学研究所 遺伝学専攻)

派遣先：スペイン

派遣先機関名：ボンベウ・ファブラ大学

派遣期間：2009年7月13日～2009年10月7日

2009年10月13日報告分

授業・研究の進捗状況

9月に入り、夏休みムードだったラボが漸く活気ついてきた。私と共同研究してくれているポスドクと普段から色々ディスカッションする機会も多くなり新たなアプローチができています。また、SNP解析について話したり、またPAMLの詳しい使い方を教えてもらったりと、一人で行うのに時間がかかることも短時間で理解でき、彼らの協力が非常に有り難い。10月の最初にバルセロナでNGS2009という学会があり、世界各国から集まった有名なゲノム解析・集団遺伝関係の研究者のセミナーを聞くことができた。このような研究者によるセミナーを一度に聞く機会もなかなかないので、良い機会に恵まれたと思う。

生活関連状況

朝晩冷え込み、日も短くなってきた。バルセロナに到着したころは、夜の10時まで明るかったのに、今では夜8時半位には暗くなるようになった。引っ越したアパートでの生活は、バルコニーから闘牛場、玄関側にサグラダファミリアという”The Barcelona”なロケーションで、大型スーパーもあり本当に快適な生活となった。バスで通学するようになったことなどを含め、出費が考えていたより多くなってしまったが、寮で生活していた時より格段に便利で快適な生活になり満足している。



ラボのメンバーが開いてくれた
farewell party

授業・研究の進捗状況

8月の最初は、多くの方がバケーションを取ってしまい、ラボががらんとしていることが多かった。その分、9月の最初にあるスペイン国内で学会ESF (European Science Foundation)に出席するための準備に時間をかけることはできたが、当初の研究計画とずれてしまった。ESFでは今行っている、霊長類に特異的な non-coding 領域の研究についてポスター発表を行った。また、ヨーロッパ各国とアメリカからゲノム比較の研究者が来ていて、ディスカッションの機会を持つことができたのは幸運だった。



学会で行った San Feliu の海

生活関連状況

日本より生活費が高めなので、想像していたより出費がかさんでいるが、その他は快適。スペインでは、夕食は夜の10～12時だ。夜12時過ぎになると、研究を終えた学生やポスドクとともにバル（飲み屋）に出向き夕飯を取ることがある。ビールかワインを片手に話せば、色々な国から来ている学生と研究以外のことまで話は及び、すっかり仲良くなった。治安だが、バルセロナでは夜中の2時位は、まだまだ町に人が多く歩いており、家族連れや、老夫婦などが食事から帰る途中だったりする。用心するのには越したことはないが、今のところは治安に不安を感じない。

その他報告すべき事項

大学のカフェテリアで募集していたアパートを借りることになった。

2009年8月13日報告分

授業・研究の進捗状況

7月中はセミナーがあった、8月に入ると夏休みシーズンということで、セミナーはほとんどなくなるようだ。スペインに到着してから、研究を発表する機会が多くあり、かなり慌しかった。その分、いろいろな研究者とディスカッションができ収穫もあった。特にラボのメンバーは発表が終わった後に、この解析をしてみたら、と気軽にディスカッションしに来てくれる人もいて有り難い。

生活関連状況

UPFでは、毎年7月の終わりにラボ対抗ビーチバレー大会があるため、この時期、有志の学生、ポスドク、職員で夜8時からビーチバレーのトレーニングを行う。夜10時位まで外は明るいので、練習時間はたっぷりだ。PRBBには綺麗なシャワールームが各階に設置されており、砂まみれ汗まみれになっても、練習後の研究に問題はない。ビーチバレー大会の決勝トーナメントは多いに盛り上がり、その後のパーティーでは、アフリカンミュージックの演奏やフラメンコが披露された。普段、真面目な人も皆ノリが良く、パーティーがしっかり盛り上がる。



ビーチバレー大会の決勝トーナメント

その他報告すべき事項

学生寮が9月から利用できなくなり、高いホテル料金で借りられる部屋しか空いていないようだ。アパートを探し始めたが、なかなか良い物件は見つからない。